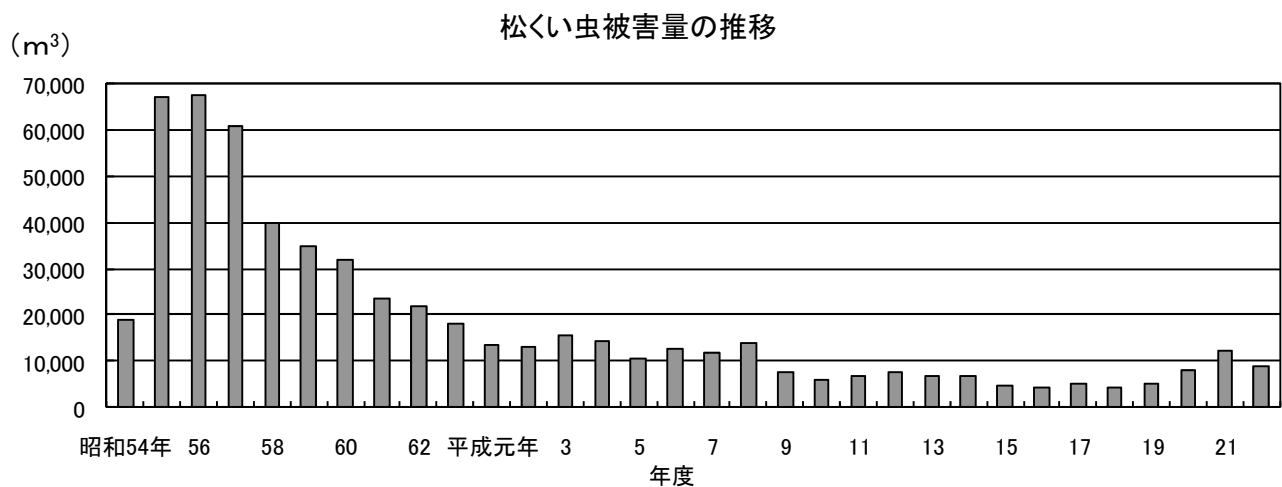


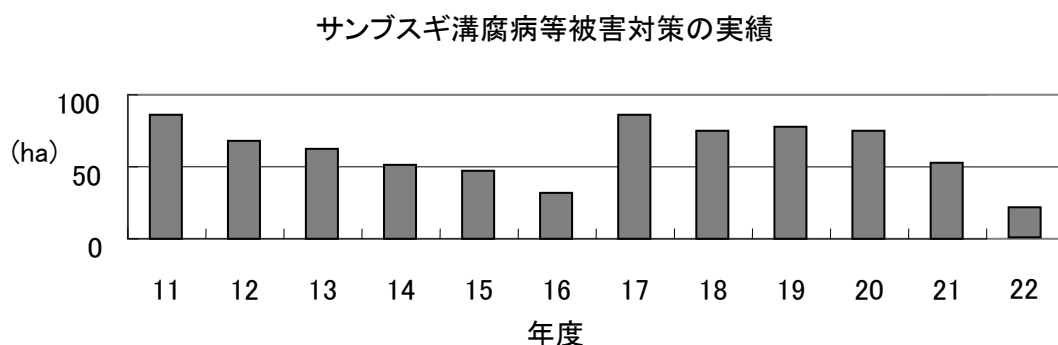
6. 森林の保護

(1) 森林病虫害の防除

—松くい虫被害対策及び被害森林の再生—



「森林課資料」



(注) 平成9～16年度まではサンプスギ溝腐病総合対策事業、平成17～21年度まではサンプスギ林再生事業、平成22は被害森林再生・資源循環促進事業

ア 松くい虫被害対策

松くい虫被害は、昭和22年に君津市で確認され、県中央部(夷隅・長生・千葉)に拡大した後、松林が集中する北総地域にまん延し、昭和56年には被害量が67千 m^3 と最高値を示した。

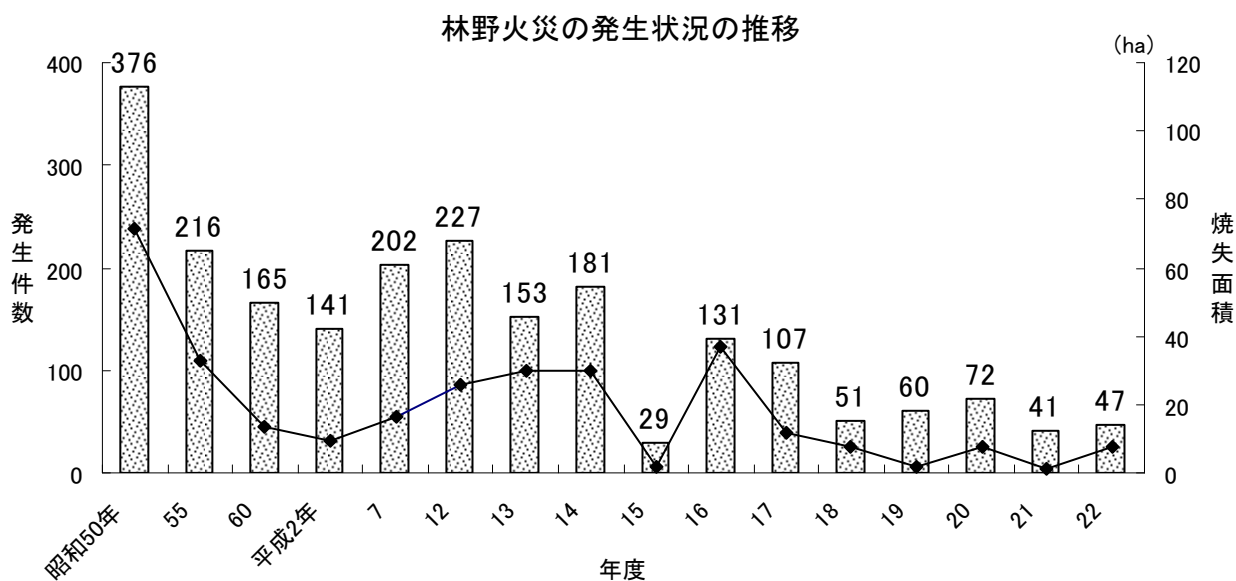
その後、薬剤散布及び被害木駆除等の各種防除対策を実施してきた結果、被害量は徐々に減少し、平成19年度までは約4～5千 m^3 で落ち着いていた。しかし、平成20年度から九十九里海岸地域を中心に再び被害量の増加が顕著になり、平成21年度は約1万2千 m^3 、平成22年度は約9千 m^3 の被害量となった。そのため、今後は、保安林等公益的機能の高い松林を中心に生活環境や自然環境に配慮しながら従来の防除を徹底するとともに、より効果的な被害対策を検討する必要がある。また、疎林化した松林の再生のために育種事業や治山事業等と連携し総合的に対策を講じていく。

イ サンプスギ溝腐病等被害対策

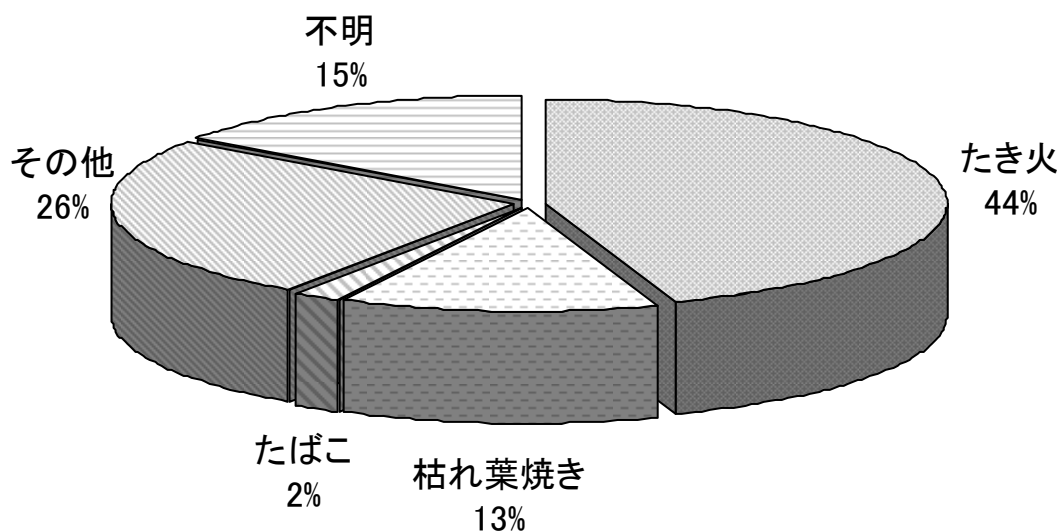
サンプスギ溝腐病を含む病虫害又は気象災害を受けた森林の再生のため、被害木等の伐倒・搬出並びに伐採跡地の植林等を計画的かつ総合的に実施し、健全で活力ある森林への再生を図った。平成22年度には、伐倒・搬出21.2ha、植林4.84haを実施した。

(2) 林野火災

—面積件数とも前年と比較し増加—



平成22年次 林野火災の原因別内訳



平成22年の林野火災による焼失面積は7.75ha、出火件数は47件で、前年と比べ出火件数は微増であったが、焼失面積は約6倍と大幅に増加した。

発生時期をみると、火災の発生しやすい気象条件となる1～4月のほか8月・9月に多くの火災が発生した。出火原因については、たき火によるものが全体の44%で最も多く、枯れ葉焼きの13%がこれに次いでいる。

平成22年度は、春期に千葉県山火事予防運動を実施し、県民に防火意識の啓発を図るとともに、森林所有者や森林組合員等へ山火事予防宣伝物品を配布し、たき火やたばこによる火災発生に対して注意を喚起した。